

第5B分科会「教職員の専門性に関する課題」に参加して

豊後大野市立清川中学校

教頭 廣末 基幸

第5B分科会では、滋賀県高島市立朽木中学校の今井俊彦先生による「教職員の指導力向上を目指す教頭の関わりー小中一貫教育の取組を通してー」と大分県豊後大野市立朝地中学校の佐々木直子先生による「義務教育9年間で育む地域とともに生きる子どもの育成ー小・中一貫教育の推進と教頭の役割ー」の2本の提言が行われた。「小中一貫教育の推進に向けての地区教頭会の役割」と「教職員の意識をつなぐための副校長・教頭の役割」の2つの協議の柱が設けられ、グループごとに協議が進められた。グループごとの協議及び2名の指導助言者により確認された内容は以下の通りである。

- ・機会と場の設定の調整役をするのが副校長・教頭の役割である。
- ・小中の文化の違いによるデメリットを情報共有、情報交換しながら克服していくことが大事である。
- ・教職員の意識を変え、無理のない範囲で小中一貫教育を進めて欲しい。
- ・コーディネーター、推進委員を活用し、組織的対応をする。また、他校の合理的な取組を取り入れる勇気をもつことが大切である。
- ・小中で一緒にするもの、別々にするものを整理して実施する。実施後は検証を行い、取組の継続、廃止、改善を行っていく。そのことで相互理解が深まる。
- ・ありとあらゆるものをつなぐ副校長・教頭の役割は大きい。
- ・地域や保護者の声を学校運営に活かせる教頭会であって欲しい。
- ・地域とのつながりの視点として、地域でどんな子供を育てたいのかといった思いを大事にしていく。
- ・仕事分担を明確にし、声をかけながらミドルリーダーの育成を図ることが大切である。
- ・小中一貫教育をプラスアルファと捉えるとつらくなる。ネットワークを広げる機会として捉えていきたい。
- ・人材育成に小中一貫教育をツールとして利用する。
- ・会議の効率化、組織のスリム化、一人一役による教職員の意識改革が組織対応に効果的である。
- ・他校でもできる体制づくりが大事である。
- ・自校での取組を発信し、シャッフルに強くなるのが教頭会の役割である。